

令和 6 年度 経営情報学科

自己点検・評価報告書

令和 7 年 3 月

富山短期大学 経営情報学科

1. 建学の精神（他部局で記載のため省略）

2. 地域・社会貢献

（1）現状

① 地域理解の増進

2年後期の「生涯学習概論」で富山駅周辺の課題を発見し解決策を検討した。（詳細は富山短期大学 HP「学生目線で考える富山駅周辺の課題」に記載）

② 公開講座等の充実

- ・県民に役立ち、本学の特色をアピールできる魅力的な公開講座を積極的に実施し、そのための効率的・効果的なPRを行っている。
- ・地域連携センターが統括する「富山短期大学公開講座」に注力し、4講座を担当している。（詳細は「令和6年富山短期大学地域連携活動年報」に記載）

（2）課題

公開講座をはじめとする各種地域連携事業について、地域連携活動が更に伝わるよう、可視化や情報発信の強化が必要である。

（3）特記事項

特になし。

（4）改善計画

公開講座では教員の専門性を活かし、開講時期や内容を見直し、学生の「いみず学生アイデアコンテスト」など地域に根ざした活動への参加を促し、その成果を可視化する。地域課題解決に向けた研究活動を推進し、競争的資金を獲得しながら地域との連携を深め、その成果を情報発信に繋げていく。

3. 教育目標

（1）現状

- ① 学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。（詳細は学生生活のしおりに記載）
- ② 学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。

（2）課題

教育目標を、学科の学生自身が深く認識する機会が限られている。

（3）特記事項

特になし。

(4) 改善計画

入学時および各学期初めのオリエンテーションで、学生に対して教育目標を周知し、学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた教育目標の点検・見直しを実施してきた。今後も継続して、教育目標のさらなる周知と改善検討を徹底する。

4. 学習成果

(1) 現状

- ① 学習成果（能力基準別到達目標）を、建学の精神および学科の教育目的・目標に基づき定めている。
- ② 学習成果を、「学生生活のしおり」や Web シラバスで各科目に「学修成果別評価基準（ルーブリック）」として記載し、学内外に表明している。
- ③ Web シラバスシステムを活用し、学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。

(2) 課題

学習成果を学生自身が授業を通じて実感できるような取り組みを図る必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

Web シラバスのアンケートやリアクションペーパーなどを利用した学生の質問・疑問に、教員が次回授業で回答するよう徹底を図る。また質問・疑問自体の評価を学生にフィードバックする。

5. 三つの方針

(1) 現状

- ① ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。
- ② 各教員は、これら 3 つのポリシーを踏まえた上でシラバスを作成し、教育活動を展開している。

(2) 課題

新カリキュラム（新教育課程）導入 2 年目（完成年度）に向けて、新カリキュラムの教育意図を教員・学生にさらに深く理解してもらう必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

教務担当の総合学務センター委員を通じて、新カリキュラムの改革意図の更なる周知徹底を図る。今後も変更の必要に応じて見直しを検討する。

6. 内部質保証

(1) 現状

Web シラバスシステムを活用し、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。

(2) 課題

授業アンケートを提出しない、一部の学生に対するフォローを考える必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

未提出の学生に対してリマインドを行い、回答しやすい環境を整える。また、アンケート結果を授業内でフィードバックし、学生の意見を授業改善に活かすことを伝え、授業アンケートの回答率向上を目指す。

7. 教育の質

(1) 現状

① シラバスの点検と改善

教務担当の総合学務センター委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員の Web シラバスのチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼している。

② 授業改善レポートの作成

「授業アンケート」を踏まえて、学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートを作成している。

(2) 課題

教員間での教育実践に関する成功事例の知見の共有が不十分である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

他の教員のシラバスを参考にしたり、他の教員の授業を見学したりするなど、学科として奨励する。

8. 学位授与方針

(1) 現状（卒業認定・学位授与方針の点検・見直しの状況）

学則第2条の2「学科の目的」に照らし点検を実施したが、特に問題はなかった。

(2) 課題

学位授与の方針が、実社会での職業にどれだけ結びついているかという点が課題である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

職業との連携不足を意識し、実社会での職業ニーズにマッチしているか否かを点検していく。

9. 教育課程編成・実施の方針

(1) 現状

① 教育課程の点検・見直し状況

「新学習指導要領・情報活用能力の育成・ICT活用」により高等学校では「情報Ⅰ」が共通必修科目となり、全ての高校生が、プログラミングやネットワーク、データ活用について学習する時代が始まった。これに合わせ、本学科でも「情報科目」の強化・充実を図る改革が必要となった。また、短期大学設置基準の改正により、演習科目の単位を2単位にすることが可能となった。これらを踏まえ、各分野の専門科目だけではなく教養科目も含めて総合的に、本学科の教育課程表を大幅に改定し、新カリキュラムを作成したのが昨年度であるが、本年度はそれらの円滑な導入・実施に努めた。特に、デジタル化技術が加速する社会を見据え、DS（データサイエンス）やDX（デジタルトランスフォーメーション）教育をさらに取り入れる一環として、情報分野の専門科目「ビジネスリサーチ」を新規開講した。

② 非常勤講師・学生等との教育課程懇談会の実施状況

懇談会は実施していないが、新カリキュラムへの対応を含めた情報交換を、関係の非常勤講師と学科長や教務担当の総合学務センター委員との間で密に実施している。

(2) 課題

DS、DX教育をさらに発展させる。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

情報分野の新しい専門科目「ビジネスリサーチ」の意義を学生に周知して、同科目の円滑な導入を図る。また、デジタル教育について全学との歩調を合わせながら、学科内でも徹底する計画である。

10. 幅広く深い教養

(1) 現状

- ① 短期大学設置基準に則り、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実施体制も確立している。（詳細は学生生活のしおりに記載）
- ② 教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。
- ③ 専門科目との関連性を踏まえながら総合教養科目、外国語・体育科目など教養教育の改革・再編を図っている。
- ④ 教養演習では、読解力、不理解箇所の調査力、内容の整理力、資料の作成力、発表のプレゼンテーション力というビジネスパーソンが必要とする基礎的能力の習得を目的とした教育を行っている。具体的には、各教員が少人数制によるきめ細やかな個別指導を行うことにより、学問修得の面だけでなく、ディスカッションやコミュニケーションを通じて、社会常識を確認するための人間的成長の面についても習得を目指している。

(2) 課題

数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な理解や関心を高める教養科目（「人間と情報」）が好評となった。さらに情報分野の専門科目で新規開講の「ビジネスリサーチ」を、同じように軌道に乗せ、教養と専門との連続性を実現する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

情報分野の専門科目で新規開講の「ビジネスリサーチ」を、同じように軌道に乗せ、教養と専門との連続性を実現する。今後も必要に応じ、学生の幅広く深い教養の涵養に向けた各種改善を図る。

1 1. 職業教育

(1) 現状

① インターンシップの取り組み

本年度も夏季休暇を利用し、約 50 の企業団体に、1 年生のほぼ全員が参加して 5 日間～10 日間就業体験を行った。また、12 月にはその成果をプレゼンする学内発表会も実施し、体験の情報共有とプレゼン力の養成を図った。

② インターンシップの効果を高めるための取り組み状況

企業団体からの評価票を学科教員で共有し、就職指導等に活用している。

(2) 課題

「評価票」の電子化（ペーパーレス化）

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

対象となる企業団体全てに通知をする。

1 2. 入学者受入れ方針

(1) 現状

安定的な学生数を確保するため、多様な入学試験を実施している。推薦の指定校枠区分については高校側の要望なども含め柔軟に対応し早期確保を目指している。また、一般選抜、共通テスト利用型についても文系・理系問わず受験生が受験しやすい幅広い科目選択を実施している。

(2) 課題

18 歳人口の減少に伴う受験者数の減少対策、4 年制大学志望が強い高校生への短大の魅力発信、県内受験生の首都圏への流出の防止などが、これまで以上に必要である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

次年度も安定的な学生確保ため、データ分析とあわせて、推薦の指定校枠区分について柔軟な対応を図り、入学定員の確保につなげていく。また、拡大した入試区分で広い層の受験生の受け入れを行いつつ、オープンキャンパスで短大の魅力を発信する。

1 3. 明確な学習成果

(1) 現状

- ① 「能力基準別評価方法」、「ルーブリック」、「シラバス」の点検と改善
教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員の Web シラバスのチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼している。
- ② 学修成果の到達度・変化の把握とその要因の分析
「授業アンケート」を踏まえて、学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートで実施した

(2) 課題

学科内で学科 FD か、それに準ずる取り組みを実施する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

他の教員のシラバスを参考にしたり、他の教員の授業を見学したりするなど、学科として奨励する。

1 4. 学習成果を測定する仕組み

(1) 現状

- ① 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みとして Web シラバスシステムがあり、教職員により活用がなされている。（詳細は教務部で記載のため省略）
- ② 学生アンケートや大学編入学率、就職率などのデータを活用し、学習成果を測定している。
- ③ これらのデータ等をもとに評価した学習成果を学内外に公表している。

(2) 課題

授業評価アンケートや学修行動・生活調査などの回答率を上げる必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

各種アンケート調査の回答率を維持・向上させるための方策について検討し、その結果を踏まえ、学習成果を測定する仕組みの点検・見直しを検討する必要があるが、これは全学的な問題でもあるので、学科として、総合学務センター委員会での提起を行い、改善を目指す。

15. 学習成果を可視化する指標

- (1) 現状
14(1)③に記載。
- (2) 課題
14(2)と同じ
- (3) 特記事項
特になし。
- (4) 改善計画
14(4)と同じ。

16. 卒業後評価への取り組み

- (1) 現状
 - ① 全卒業生の就職先にアンケートを依頼して評価を聴取している。得られた情報は、キャリア支援センターと経営情報学科教員全員で情報共有を図り、ビジネス実務演習の授業にて教育活動の改善を推進している。(訪問記録はキャリア支援センターと経営情報学科事務室の両方で集約保管、集計抜粋資料を最終ページに掲載)
 - ② 学生の就職活動の状況や内定取得の最新情報は、各ゼミナール担当教員が主となり学科共有ドライブにて管理し情報共有を行っている。またこの学科共有ドライブはキャリア支援センターも閲覧・管理できるシステムであり進路決定に困難であると想定される学生の早期発見と支援に活用している。(結果は経営情報学科 NAS にて保管)
- (2) 課題
今後の就活生のために受験報告書の提出率向上を図る。
- (3) 特記事項
特になし。
- (4) 改善計画
ビジネス実務活用演習等の授業にて都度、呼びかけを行う。

17. 教育資源の有効活用

- (1) 現状
 - ① シラバスに示した成績評価基準によって学習成果の獲得状況を評価している。この点は、Web シラバスシステムの成績入力フォーマットにより、確実に担保されている。
 - ② 学習成果の獲得状況については、成績表や学生アンケート、就職・資格関連データ等により適切に把握している。

- ③ 学生による授業評価については、毎授業実施する授業アンケート並びに半期ごとに実施する授業評価アンケートにより行われ、特に後者についてはその結果を授業改善レポートにまとめ、実際の改善に活用している。
- ④ 授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を日常的に図っている。全学科教員が参加する教養科目に関しては、特に緊密な連携を行っている。
- ⑤ 教育目的・目標の達成状況について、各種学生アンケート結果や、成績関連資料、就職・資格関連資料等により、客観的に把握・評価している。
- ⑥ 学生に対する履修・卒業に至る指導については、学期始めのオリエンテーション等を通じて全体的に、また教養演習や専門演習さらにはゼミ担任による面談等を通じて個別的に、実施をしている。

(2) 課題

新任教員に対して、よりきめ細やかな教員間の連携を通じたサポートが求められる。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

新任教員に対する、よりきめ細やかな教員間の連携を通じたサポートを行い、新任教員が一年目から、有効に学生教育に集中・貢献できるようにする。

18. 学習支援

(1) 現状

① 成績評価や各種学生アンケート結果の学生へのフィードバック

授業科目における履修生の成績評価や、各種学生アンケート結果などのデータ収集とフィードバック方法及びアフターケアの充実については、各教員が授業改善レポートで点検し、改善のための検討を行った。

② 成績開示と履修指導の実施及び個別指導の充実

- ・学生の成績は、GPA 評価を付加した資料を学生に開示し、それを基にゼミ担当教員が学生の個別指導を行っている。
- ・出欠管理を厳しく行い、教員間で学生指導の状況を共有している。4回以上の欠席者に対しては、保護者へ郵送で連絡を行っている。
- ・成績不振学生に対する個別指導として、保護者懇談会(大学祭期間中)を実施し、保護者への現状理解と情報共有、当該学生の意識確認などを行った。

③ 授業外学修時間を増やすための授業方法等の工夫

予習・復習を必要とする授業（反転授業）については、Web シラバスを利用して実施している。その効果は、各教員が学生の成績や期末授業アンケートなどを基に授業改善レポートで検証を行っている。

④ 図書館設備・環境の改善

- ・各専任教員が自分の専門分野の中で特に学生に読んでもらいたい本を選定し、図書館に揃えた。経済・経営・会計・簿記・情報・ビジネス実務・図書館分野の良書を取り揃えたことは、学生の更なる勉学に役立つと期待される。
- ・教室の一部に新聞・雑誌の閲覧コーナーを設けている。新聞は6紙用意しており、記事の読み比べを推奨している。

⑤ 入学前指導の実施内容

入学前セミナーにおいて、学科長および担任で入学までに習得すべき課題について説明を行った。

⑥ 学科独自の個別的な学習支援の取組

各教員がオフィスアワーを利用し、学生の個別対応を実施している。また、資格関連や編入学などの個別対応を長期休暇・休日・時間外などを利用して実施していることもある。

(2) 課題

- ① 成績不良の改善にむけて、自ら対応できない資質をもつ学生が増えている。
- ② 学科独自の個別的な学習支援を行うため、長期休暇・休日・時間外などを利用せざるを得ない状況である。このままでは担当する教員への負荷が大きくなるため、効率的かつ効果的な個別対応の方策を検討する必要がある。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

- ① 対象となる学生の各授業での理解度や状況を学科教員全員で共有し、各授業での個別指示対応に生かすと共に、状況に応じてゼミ担任による面談指導を行う。
- ② 効率的かつ効果的な個別対応にむけ、専任教員全員がオムニバスでコマを担当している「大学教育と学修」(1年次)の指導を通し、自主学習の習慣化に図書館利用を促し、より学生が利用しやすい図書館利用のあり方や各種媒体やツールを活用した指導を検討対応していく。

19. 生活支援

(1) 現状

- ① 総合学務センター(教育研究部)・健康支援センター(運営管理部)と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。(詳細は総合学務センターで記載のため省略)
- ② 学生への支援・相談は主にゼミ担任が担当している。

(2) 課題

カウンセリングを必要とする学生や、母子家庭など経済的支援を必要とする学生が増えてきている。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

総合学務センター（教育研究部）・健康支援センター（運営管理部）との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。

20. 進路支援

(1) 現状

- ① 本学への求人票は、Web と紙媒体（学内 2 か所）にて閲覧できるようにしている。
- ② 近年増加する就職支援サイト(マイナビ・リクナビ等)の使い方や登録方法を指導し、早期に活動を開始するよう促している。
- ③ 企業へのエントリー方法や履歴書の書き方、そして礼状の出し方までの一連の就職活動は、進路ガイダンスにて一斉指導を行っている。
- ④ 学生の個別支援は各ゼミナール担当教員が行っている。少人数であるため、学生一人ひとりの資質に合わせた指導が出来る。
- ⑤ 就職活動に困難が生じている学生に対しては、キャリア支援センターと連携し個別指導が出来る体制を構築している。

(2) 課題

就職活動の困難な学生への対応策。

(3) 特記事項

特になし

(4) 改善計画

科内教員が連携し、学生の希望する進路に応じた柔軟な指導方法を提示する。また、キャリア支援センターとの連携を強化し、情報共有を密にしながら個別指導を行う。

21. 健康支援

(1) 現状

障がいのある学生等に対する個別支援の強化

- ・入学前に申請があった場合、健康支援センターから各学年担任に連絡される。本人の意思を確認し、周知する範囲を厳守しプライバシーの保護に努めている。
- ・昨年度に引き続き今年度も「合理的配慮提供の義務化に向けた教育環境の整備について」と題し健康支援センターが主催した講習を全教員が受講し、合理的

配慮に関して学びを深めた。

- ・学年はじめに健康支援センターから学生健康情報の提供があり、それにもとづいて学生への対応には注意を払っている。

(2) 課題

経営情報学科が主に使用している A 館は、エレベーターもなく階段が多く、肢体不自由な学生を受け入れるには困難な学習環境である。短大全体の課題として、ハード面の環境整備が喫緊の課題と言える。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

合理的配慮が必要な学生を受け入れるための環境整備を検討するチームを編成する。また障害を抱える学生に対しては健康支援センターとの連携を強化していく。

2 6. 教育研究活動

(1) 現状（学科教員の教育研究活動の概況）

① 教育活動

授業アンケートによる総合評価値は、4 点満点中、3.5 以上となっており、学生の満足度は概ね良いと判断できる。

② 研究活動

学外の学会等に研究成果を発表し積極的な研究活動を行っている。

(2) 課題

配慮学生が年々増え、その指導に要する時間増により研究活動等に割ける時間が減る傾向にある。よって、配慮学生の指導時間の確保が課題である。

(3) 特記事項

特になし。

(4) 改善計画

配慮学生の卒業、及び出口（就職）確保ができるよう、学科内で情報を共有し対応方法を体系化していく。

令和6年度富山短期大学卒業生【令和6年3月卒】の事業所・企業等
就職先訪問 報告書

経営情報学科

調査卒業生数 69名

評価項目	A（良い）	B（やや良い）	C（普通）	D（やや悪い）	E（悪い）
1. 礼儀・基本的マナー	56%	28%	12%	4%	0%
2. チームワーク [チームで働く力]	47%	25%	21%	7%	0%
3. アクション [前に踏み出す力]	35%	25%	24%	16%	0%
4. シンキング [考え抜く力]	21%	32%	35%	12%	0%

5. その他、応対者のコメント

- ・個人の学ぶ意欲や積極性が非常に高く、逆に見習うべきことがたくさんあると感じる。
- ・言葉遣いが丁寧で人当たりがよい。ITパスポートレベルの知識がほしい。
- ・最初の頃は緊張からか控え目な印象だったが9月頃から持ち前の明るさと愛想のよさが出てきた。業務にも真面目に取り組んでいて代表から「良い子を採用したね」とコメントをもらったこともある。
- ・積極的で会社の行事にも参加している。同期同士良きライバルとして高め合っている。
- ・ベテランでも難しい新規開拓活動にも積極的に取り組んで実績も付けてきている。
- ・礼儀正しく素直でしっかり学んでくれていて、本人は自信をもていないようだが足りないことは反省し次の行動に活かしており今後会社に欠かせない人物になると思っておる。
- ・入社直後は体調不良だったが少しずつ改善。協調性が欠けている部分があり今後に期待。
- ・非常に優秀で呑み込むも早く前向きに業務に取り組んでいる。すでに率先力になっている。
- ・業務に取り組んでいるが積極性にかける。意欲的に自分からコミュニケーションを取る努力を。
- ・慣れない業務で苦労している。大人しいので全員でフォローしながら指導している。

6. 大学に要望すること(大学で指導してほしいこと、学生に身に付けてほしいこと 等)

- ・履歴書や面接で志望動機の欄に「企業の事業説明を書くだけ」の学生が多い。どんな就活をして何故志望したのかを答えていただくと適切な評価がしやすい。
- ・ビジネスマナーは新入社員の中でも特別に身に付けた状態で入社してくれて普段の業務に活かしている。
- ・スマホやPCが当たり前になった時代だが手書きで字を書く回数を増やすべき。それが知識向上に繋がる。
- ・挨拶がきちんとできる人に育ててほしい。素直に支持されたことを行動できる人格であることを希望する。
- ・報告、連絡、相談をしながら失敗を恐れずまず行動する力を身に付けてほしい。
- ・簿記(お金の流れ)、エクセルマクロ、RPAなどの事務自動化スキル、英語スキル(TOEIC600以上)
- ・メール、電話への対応を確実に行う。今どきはLine等のやりとりに慣れていて電話に出ない傾向にある。
- ・コミュニケーション能力。不明な点は自ら積極的に質問し進捗を報告し確認しながら業務を進める姿勢。
- ・チームでの共同ワーキング経験。Excel、集計、グラフ、プログラミング経験があれば可。
- ・合説以外での学生さんとの交流の機会を設けてほしい。会社のことだけでなく就活のお力になりたい。

7.来年度の求人について

- ・コンサルタント職、マネジメント職、物販・飲食スタッフ職を募集。
- ・土木施工管理職、土木資材及び産業廃棄物の管理職を募集。
- ・調剤事務職、ドラッグストア総合職、各100名程度募集。
- ・生産技術職、営業職を募集。
- ・貴学より採用できることを強く希望。営業職・技術職を5名程度募集。
- ・非常に良い卒業生が多いと感じる。来年度も数多くよろしくお願いします。
- ・毎年優秀な卒業生をおくりだしていただき感謝。即戦力となっている。
- ・短大OB,OGが多く在籍し、知識を身に付け様々な部署で活躍してくれている。会社の発展に向け貴校の学生に期待している。
- ・4年生、短大、高専含め3名程度採用予定。

8.卒業生からの声

- ・授業で学んだスキルは様々な場(社内や取引先)で活かしている。(特にPCスキル・礼儀作法)
- ・ビジネスマナーや文書作成、グループワークで身につけた「考えて話す力」は今の仕事に活かしている。
- ・履歴書等苦戦することが多いが就活に必要なイベントや行事には積極的に参加して自分の引き出しを増やせるようがんばってください。
- ・まったく触れてこなかった理系の分野を扱う配属先でまだまだ不安があるが、入社してから自分の成長を感じることが多々ある。皆さんが優しく楽しく仕事ができている。
- ・役に立ったことはゼミとアルバイト経験。ゼミではサービス接遇検定を取得し印象の良い表情や言葉遣いを身につけることができ電話対応の時に活かしている。アルバイトでは年齢の違う人と接することで、働くことへの責任感がもて社会経験を積むことができた。学生の時間があるうちにもっと検定取得や旅行に行っておけばと後悔している。長期休みをだらだらと過ごすことが多かったので計画的に動けばよかった。
- ・学生時代に学んだexcelのピポットテーブルやaccessのクエリなどが仕事に役立っている。学生生活ではPC検定の取得に励むと今後に活かせると思う。
- ・仕事ではExcel,PowerPointなどを中心にパソコンを使用して作業をしている。簿記やプレゼンなど短大で学んだ多くのことを活かすことができています。
- ・日商PC検定、word.excelやウェブプログラミングの授業で学んできたおかげで実際の業務でも大きく動揺することなく取り組むことができた。
- ・ルーティン業務もあるが日々様々な仕事をこなし、楽しく仕事に取り組んでいる。